

2019年度自己評価公表

聖隷こども園わかば 教育・保育理念

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指します。

- *愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- *一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- *自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- *在園・地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てができるように支援する。

*目 標

「子ども自身に生きさせよ」～自分で考え判断し、行動する子ども～
をめざし、個々の年齢・発達に配慮した教育・保育を行っています。

2019年度の重点目標

- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、園児の発達の連続性を考慮して、0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していく。
- ・「幼児期に育てたい力」における「3つの力」「10の項目」への理解を深め、保育実践の中で活かす。
- ・園の理念や園目標を理解し、具体的なフォトラーニング等の学びを深めながら保育実践を行っていく。

評価項目別の達成および課題状況項目	自己評価・課題
第1章 総則 1. 教育及び保育の基本と目標	<ul style="list-style-type: none">・乳幼児期の教育及び保育は、子どもの最善の利益を考慮して進めなくてはいけないことを理解している職員が多いが、それを具体的にどう実践に活かしていくか学びを深めたい。・「環境を通して教育及び保育を行うために、重視しなければならない事項」について、自らの言葉で説明ができないと感じている職員が多い。自分たちの行っている保育を言葉で説明できる力と、環境と保育への理解を深める必要を感じる。

<p>2. 特に配慮すべき事項</p> <p>(1) 教育及び保育の配慮</p> <p>(2) 健康支援</p> <p>(3) 食育</p> <p>(4) 特別支援教育・障害児保育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりが何を思い行動をしているのか、何を考えているのか、一歩立ち止まって気持ちをくみ取ることが意識できている。肯定的な関わりが意識できている。 ・子どもの日々の健康状態を把握し、保育にいかすよう心掛けられている。しかし、入園前の発達状況の周知までは難しい。 ・不審者対応訓練等を通して、園全体で防災、危機管理体制について改めて周知することができ、意識も高まっている。 ・日々の食事体験を通して、食への興味関心を高められるよう取り組んでいる。また、アレルギーのある子どもへの対応については保護者、看護師、栄養士、担任とで定期的な面接を行い対応している。 ・障害のある子どもの特性に合わせた個別計画を作成し対応しているが、園の全ての保護者に対しての説明は行っていない。必要に応じて適切な情報を提供していきたい。
<p>第2章</p> <p>1. 子どもの発達</p>	<p>昨年度同様、子どもの発達は、豊かな心情、意欲、態度を身につけ、新たな能力を獲得していく過程であることを理解し、一人ひとりの子どもの発達過程を捉えていくよう努めている。</p>
<p>第3章「ねらい」及び「内容」</p> <p>1. 保育内容「健康」</p> <p>2. 保育内容「人間関係」</p> <p>3. 保育内容「環境」</p> <p>4. 保育内容「言葉」</p> <p>5. 保育内容「表現」</p>	<p>「幼児期に育てたい力」をもとに、概ね指針に即した取り組みができている。</p> <p>子ども同士の関わりや、保育者の子どもへの言葉かけ等、人と人との関わりの重要性を理解して保育を行っている。一人ひとりの気持ちを大事にしたうえで、ねらいを持ち働きかけを行っている。学びを深める中で、「環境を通して保育をする」視点をもっと深める必要性を感じている。各クラスで子どもたちの興味・関心に合わせ、なおかつ発達を促せるような「環境」作りを行っていきたい。</p>

<p>第4章 低年齢児の保育実施上の配慮事項</p> <p>1. 乳児期の保育に関する配慮事項</p> <p>2. 満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項</p>	<p>子ども一人ひとりに特定の保育者が応答的に関わられるような担当制の体制はとっていないが、乳児期の子どもにとって応答的な対応の必要性は職員間で周知し心がけている。各クラスで部分的に少人数のグループで過ごし、丁寧な関わりができるよう工夫しているが、乳児クラスの定員も多い中、一人ひとりの子どもへのきめ細やかな配慮ができるよう必要に応じて特定の保育者が継続的に関わられるようにするなど、今後緩やかな担当制について検討していきたい。</p>
<p>第5章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項</p>	<p>「幼児期に育てたい力」について、学びを深め指導計画に活かすようにしている。各年齢で、子どもの視点や思いを理解する取り組みを進める中で指導計画にも反映されてきている。</p> <p>年長児クラス担当者が幼・保・こ・小の連絡会や共通のテーマをもとに行った研修等に参加できたことは、円滑な接続に対する意識の向上につながっている。</p>
<p>第6章 研修と自己評価</p>	<p>昨年に引き続き園の保育理念、基本方針、保育過程の職員の理解は概ね出来ている。</p> <p>自己評価を行うことで職員一人ひとりが自身を振り返る機会となっているが、積極的に公開保育を行うなど更なる資質向上に向けた取り組みを行いたい。</p> <p>外部研修、園内研修に参加したり、保育士ラダーを活用し各職員の資質向上につなげている。また、自身の役割を明確にしてキャリアアップ研修に計画的に参加できるようにし、研修報告をすることで学びを深め、共有できる機会を持っている。</p>
<p>第7章 子育て支援</p>	<p>昨年同様に、子育てに対し、保護者と共通理解を得るために懇談会などの機会を設けている。</p> <p>日頃からフォトラーニングで子どもの気持ち</p>

	<p>を考えることを続けているため、保護者にも 掲示して共有できるよう工夫している。保護 者にもフォトラーニングに取り組んでもらう 場も設けている。</p> <p>地域における子育て支援に関しては、子育て 支援ひろばを中心に地域の子育て支援の拠点 として今後も取り組みたい。</p>
<p>総評</p>	<p>子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮し た保育への意識は高い。子どもたちの思いを 大切にする視点を持ちながら、リスク管理を 行う視点も今後さらに強化していきたい。ま た、不審者対応訓練を行ったことで、危機管 理についての意識が高まった。今後も様々な 取り組みの中から職員の些細な気づきを園全 体のこととして考えていく。社会情勢に目を 向け、保育に活かすことや、子どもの育ちが 就学にもつながっていくこと等を職員全体で 意識し取り組むことが足りない部分もあるた め、小学校との連絡会や勉強会での学びを全 体で共有することを強化したい。</p>

保育者のための自己評価チェックリスト

～保育者の専門性の向上と園内研修の充実のために～による自己評価より